

一月六日

仕事始め。今年の方角を概略述べる。夕方新年会。

一月七日

昼学校へ。幾つかの打合せ。

一月八日

朝、世田谷村ミーティング。ミジンコに語りかけても仕方ネエのは重ね重ね解ってはいるのだが、俺も変だよな。まだあきらめずに語りかけている。十五時大学にて学科会議。十九時世田谷村へ戻る。聖徳寺打合せ。二一時原稿書き始める。原稿用の頭にまだなっていないので進まないだろう。

一月九日

昨夜、GA原稿、今朝室内原稿、午後ダイヤモンド社原稿書く。ようやく頭が廻り始めたような気がする。十勝のスノーボードが出来上がり営業を開始する旨連絡があった。スノーボードは発表したくてもピッタリのメディアがないな。藤塚に相談乗ってもらうか。夕方、何時だか定かではないが、大久保駅前でソバを喰おうとしていたら、中国コンペ関係の馬鹿げた情報が入り乱れて入ってきた。これを平然としてさばくのは誰も出来まい。なるようにしかならんのだ。

両極で動くというイメージが突如浮かんできた。何だか岡本太郎だね。結構今の構図は面白いのだ。直径4km以上の都市の設計をしている同じフェーズで、四十坪の小住宅の設計をやっている脈絡はない。注ぎ込むエネルギーは似たようなものだ。建築設計の空漠たるところは、決して一人では成し遂げられぬところかな。他人の手を何処かでわずらわせなければならぬ宿命を持つところだろう。

世田谷村に帰ったら東北へいあんグループの菊地麗子役員の訃報が入っていた。何度か東北で食事をした位の附合いであったが、それでも仰天した。何とまだまだ続いているな連続死亡事件は。

一月十日

王国社から出す本のあと書きのリミットになった。朝五時起き出して原稿書き始める。何とか二〇枚以上は書こう。一日で。幸い今日は完全に世田谷村に埋没できる。しかし、不思議なもので世田谷村日記を書く文体と、他のモノを書く文体とが近寄ってきている。やっぱり俺は何かをしていないと、何も書けない類の人間なんだ。思っていたより早く十九時過ぎに王国社の予定二〇数枚は書きおえた。今日はこの位にしておこう。書き過ぎると眠れないからな。

一月十一日

朝九時前、禅と念仏社原稿終る。今日は建築のスケッチに戻りたい。西東京市の小さな共同住宅に付属させるガレージハウスの第一案はアールト好きの人のミニハウスとして、ホームページ上にプロポーザルする事にした。関心のある方はそちらの方の情報も追跡して下さい。

浜島さんのグレース鍼灸医院の広告もホームページに公開する。当然、北海道十勝のスノーボード、レストランの広告も出す。ひろしまハウスのレンガ寄進の広告を考えなくては。レンガ一個五百円だな。キルティプール、ワークショップの内容をつめよう。ツアーの広告はすでに出しているのだが反応がうすい。絵柄が悪いんだな。

絵柄と言えば、今度の王国社からの本の表紙は僕が夢中で描いた何号だかの絵が使われているらしい。十二時半。今日は、十三時から地下で連続の発表会がある。二階の奥深くまで冬の陽光が差し込み暖かく気持ちがいい。二日間ほとんど原稿書きに付きやした。成果もあつたのでホッとしているところだ。毎日新聞の六車護から寒中見舞いの葉書をもらう。六車も健が居なくなつて飲み相手が欲しいんだろう。十二時四〇分突然山口勝弘先生から電話あり。脳硬塞で倒れたうんぬんは宮脇愛子さんからうかがっていたが、やっぱり声が変わっていた。淡路島山勝工場の件。早く淡路に帰つて、アレを美術館にしたいのだの話だ。山口勝弘にアア言われたら力を出さなきゃ男じゃネエよ。近々、横浜のリハビリセンターに居る山口さんに会いにゆく事にした。山田脩二にも声を掛けてみよう。強者がばたばた倒れてる。山口さんから「君もそろそろ気をつけた方がヨイ。」と忠告される。気をつけても、つけなくつても同じなんだ、というのが僕の考え。

十三時ミーティング。十六時安藤の修計を見る。最良のテーマを与えているのだが、ついてきてない。やる気がないとしか思えない位の出来だ。何かを達成しようとする、達成そのものの水準が低い。今、その水準を上げておかないと、もうチャンスは無いのに。これは経験を積んで得られるものではない。十八時星の子愛児園新年会。保母さん達は明るく元気な人が多い。二十二時過

世田谷に戻る。